

平成 29 年度第 1 回清瀬市環境審議会会議録（要旨）

日 時 平成 29 年 11 月 2 日（木）
午前 10 時～午前 11 時

場 所 清瀬市健康センター第 3 会議室

出席委員 石井委員、佐藤委員、堀田委員、松村昌樹委員、松村忠生委員、並木委員、
江口委員、田中宏委員、田中利和委員、渡邊委員、小川委員（11 名）

欠席委員 宮澤委員（1 名）

事務局 佐々木都市整備部長、金子水と緑の環境課長、
杉本環境衛生係長（3 名）

〈会議次第〉

- 1 開会
- 2 挨拶 都市整備部長
- 3 自己紹介
- 4 議題
 - (1) 平成 28 年度清瀬市温室効果ガス排出量報告について
 - (2) 第二次清瀬市環境基本計画実行計画の執行状況について
 - (3) その他
- 5 閉会

〈配布資料〉

- ・平成 29 年度第 1 回清瀬市環境審議会次第
- ・平成 28 年度清瀬市温室効果ガス排出量調査結果について
- ・平成 28 年度清瀬市温室効果ガス排出量調査結果集計表
- ・第二次清瀬市環境基本計画実行計画実施状況報告

〈審議経過〉

- 1 開会
水と緑の環境課長より開会の挨拶
- 2 挨拶
都市整備部長より挨拶
- 3 自己紹介
新たに委嘱された委員 2 名の自己紹介

4 議題

(1) 平成 28 年度清瀬市温室効果ガス排出量報告について

【事務局】

- ・事務局より、平成 28 年度に策定した清瀬市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（以下、「温暖化対策実行計画」という）に基づく当市の温室効果ガス排出量削減目標についてと、平成 28 年度温室効果ガス排出量調査結果について報告。

資料 平成 28 年度清瀬市温室効果ガス排出量調査結果について

平成 28 年度清瀬市温室効果ガス排出量調査結果集計表

- ・温暖化対策実行計画では、清瀬市の各部署・施設が排出する温室効果ガスの総量を、平成 29 年度から平成 33 年度の 5 カ年で、平成 27 年度の総排出量を基準として 14.8% 削減することを目標としている。（4,035t-CO₂→3,436t-CO₂ に削減）
- ・平成 28 年度の総排出量は、4,027t-CO₂ となり、平成 27 年度の 4,035t-CO₂ と比較してほぼ横ばいの結果となった。
- ・要因別の排出量では、電気（74.1%）と都市ガス（14.2%）で、全体の約 9 割を占める。
- ・施設別の排出量では、清瀬市役所が最も多く、約 1 割となる。排出量のうち多くが電気由来のものであるため、基本的に施設規模が排出量に反映されているといえる。
- ・平成 33 年度までの温室効果ガス削減目標を達成するためには、排出量の約 9 割を占める、電気と都市ガスの使用量を抑えることが重要となる。

【委員】

- ・電灯の LED 化は進んでいるか。

【事務局】

- ・防犯灯の LED 化を進めており、今年度に完了する予定。公園内灯に関しては修繕を機に LED に替えていくことを予定している。本庁舎に関しては、費用対効果の問題から、建て替えの時期までは、このままいく予定。

【委員】

- ・施設毎の排出量の調査では、対面積当たりの排出量を算出しているか。

【事務局】

- ・対面積当たりの排出量は算出していない。

【委員】

- ・面積当たり排出量を算出することで、施設別にどれだけ効率的に運用されているか、温室効果ガス削減の余地がどれだけあるかの判断ができる。施設の築年数によっても、削減の余地は変わってくる。新しい施設はより削減の余地が大きいと思われる。一律

に削減目標を適用していくのではなく、こうした視点から施設毎にどれだけ削減できるのか、検討してみても良いのではないか。

【委員】

- ・上位 10 施設に小学校が 3 校入っているが、中学校は入っていない。何か理由はあるのだろうか。

【事務局】

- ・小学校では学校給食を実施している関係から、ガスの使用量が影響していると思われる。

【委員】

- ・小学校で LP ガスを使用しているところは、今後都市ガスに替える予定はないのか。

【事務局】

- ・教育委員会がどう考えるかにもよるが、小学校が避難所に指定されている関係から、災害時にも使用可能な LP ガスを使用しているという側面があると思われる。

【委員】

- ・太陽光発電による電気使用量の削減については把握しているか。

【事務局】

- ・太陽光発電による削減量は把握していない。なお、太陽光発電設備は、小中学校の大規模改修を機に、5 中、3 小、2 中、3 中に導入している。また、市の太陽光発電に関する事業としては、市民の太陽光発電設備の設置に対する補助を行っているが、補助件数は減少傾向にある。

【委員】

- ・太陽光発電だけではなく、蓄電池に対する補助も実施しているか。

【事務局】

- ・エネファームに対する補助を実施している。

【委員】

- ・削減目標の達成のために、市民を巻き込むような方策を考えているか。

【事務局】

- ・市民を巻き込んだ形の計画として、事務事業編に続く区域施策編の策定が考えられるが、清瀬市レベルの自治体では策定は努力義務に留まることもあり、将来的な課題となっている。

(2) 第二次清瀬市環境基本計画実行計画の執行状況について

【事務局】

- ・事務局より、平成 28 年度に策定した第二次清瀬市環境基本計画実行計画（以下、「実行計画」という）についての説明と、平成 28 年度計画事業の実施状況及びそれを受けての計画変更事業の内容について説明した。

資料 第二次清瀬市環境基本計画実行計画実施状況報告

【委員】

- ・事業 1 「省エネルギーに関する情報提供」について、太陽光発電等についての PR は市報・HP 等でどのように行っているか。市報等で見た記憶がない。市民への PR が弱いと思う。

【事務局】

- ・太陽光発電に関する補助金などについて、市報や HP で PR しているが、ご指摘のとおり十分でない部分もある。積極的に PR していく方策について検討していきたい。

【委員】

- ・省エネに関する市の取り組みについて、もっと積極的に PR してほしい。インターネットをあまり利用しない人もいる。イベントや転入時の案内などの機会を活用して、上手に PR してほしい。

【委員】

- ・事業 14 「市内河川調査の水質調査」に関連して、最近の台風の影響を調査したりはするののか。

【事務局】

- ・台風の際に柵が倒れたりするなどの、問題が発生する箇所を確認している。河川管理は東京都となるため、問題箇所を確認したうえで、東京都への要望活動を行っていく。

(3) その他

【委員】

- ・下宿地域でアライグマが目撃されている。アライグマはかわいいが、凶暴で繁殖力が高いという問題があり、各地で問題が発生している。こうした外来種には素早い対応が必要だと思う。また、こうした外来種の増加などの、環境の変化に対応していくための、情報共有・伝達の仕組みができておらず、素早い対応ができていないと感じる。環境は大きく変化していくことを念頭において、対策を考えてほしい。

【事務局】

- ・農家の委員の方に、アライグマやハクビシンの被害が発生しているかについてお聞きしたい。

【委員】

- ・ハクビシンに関しては、近隣の家に住み着き糞をしているという話を聞いたことがあるぐらいである。

【委員】

- ・中清戸で、ハクビシンが屋根に住み着いてしまった家があると聞いている。知らぬ間に人の生活環境に入り込んで、住み着いているような状況だと感じる。

【委員】

- ・ふるさと納税や寄付などの制度を利用して、市の環境問題への対応を支援するような仕組みをつくれぬか。

【事務局】

- ・現状では、市の基金を指定して寄付をする仕組みはある。

【委員】

- ・そうした制度があることが市民に知られていない。積極的に PR して行ってほしい。

【事務局】

- ・アライグマ、ハクビシンに関連して、近隣市では捕獲・駆除の実績があるが、清瀬市ではまだない。市内の目撃情報などを把握しながら、今後対応していくことを検討しているところである。

【委員】

- ・アライグマ、ハクビシンを捕獲したらどうなるのか。

【事務局】

- ・資格を持った業者に、駆除を委託することになる。

【委員】

- ・アライグマの捕獲を市の職員が行うのか。

【事務局】

- ・市が駆除希望者の要望により、罠を設置する形となる。

【委員】

- ・アライグマ、ハクビシンの目撃情報は氷山の一角で、かなりの数が生息していると思われる。市の早急な対応をお願いしたい。

【事務局】

- ・次回の環境審議会は来年 2 月頃を予定している。議題は、市の環境調査全般の報告を

予定している。